

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふりーくらぶりんごあめ教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 15日		2026年 3月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年 2月 15日		2026年 3月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	会社として、3事業所を展開しており、それぞれの事業所間での交流と情報共有を行うことにより、多様なニーズに応えられる体制を整えている。	グループ内の他事業所が高学年向けの事業所、学習に重きを置いた事業所を行っている。当教室で学習や運動、コミュニケーションの土台を作り、利用者の発達状況に応じて適切に成長のプログラムを提供できるようにしている。	現状のプログラムでの児童たちの成長を見ながら、他事業所との交流を深める取り組みを行っていく。
2	学校休業日を中心に積極的に外出活動を行い、活動を通じ、楽しんでもらいながら社会体験、社会ルールを学び成長を促している。	緑地や屋外公園での運動、科学館等の見学、工場見学などでの学習など、内容をローテーションさせて、子どもたちに様々な体験してもらおう、毎月内容を検討している。	行ったことのない外出先も積極的に試し、児童や保護者の反応も見ながら魅力的なスケジュールを発信していく。
3	多様な活動の中で児童同士のコミュニケーションを促し、社会性を身に付けていくよう活動を促している。	学年や学校、趣味嗜好等が異なる児童同士でも仲良く活動ができるよう、スタッフが支援している。	児童たちのやりたいことを一緒に考えるなど、自主性も重きに置きながら、個性を育てていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携が不十分である。	基本的には事業所内で活動をメインにプログラムを提供している。	事業所の責任者同士や相談支援つてのつながりを生かし、各事業所の合同イベント等も検討し、地域参加型のイベント企画を考える。
2	家族支援のうち、保護者同士が関われる機会を提供できていない。	保護者のお悩みやご相談に対してはデリケートな問題もあるため、個別対応がメインで、都度お応えしている。	同じお悩みを持った保護者同士をつなげて不安を和らげてもらったり、うまくいった子育て方法を共有してもらったりするような、保護者会の実施も検討する。
3	訓練、マニュアルの整備はできており、非常時の備えはできているものの、周知が不十分である。	毎月の通信紙で活動内容をお伝えしているが、楽しい様子メインのお伝えになっている。	連絡帳、送迎時に保護者に丁寧な説明を行っていき、ホームページやSNSの有効的な活用を検討していく。 保護者参加型イベントはご要望があった際には企画検討を行う。